

経営理念	<p>【学校経営理念】 子供一人一人の存在を大切にする学校づくり</p> <p>【学校経営方針】 一人一人のよさや違いを認める。子供が学校に来たくなくなるような授業や行事を行う。チームで子供の育ちを支える。</p> <p>【学校教育目標】 笑顔と「ありがとう」があふれる学校</p> <p>【目指す児童像】 思いや考えを表現しようとする子 自分や友だちを大切にする子 あきらめないでがんばる子</p>
------	--

短期計画目標(到達指標)	具体的な取組	学校の自己評価		学校関係者評価		年度末検証(改善策等)	
		達成状況	評価	考 察	評価		
知	<p>1. 教員の教科等指導力の向上</p> <p>・各種学力調査の国語・算数の正答率が全国平均以上</p> <p>・学校生活アンケート「授業に主体的に取り組んでいる。」70%</p>	<p>1. 教員の教科等指導力の向上</p> <p>(1)全教員授業公開(年1回)</p> <p>・全校研国語3本(2・4・5年)</p> <p>・ブロック研3本(1・3・6年)</p> <p>・学年研</p> <p>(2)各種学力調査の結果を基に、強みと弱みを分析し、授業改善を図る。</p> <p>・分析会や校内研修(年4回以上実施)</p>	<p>・全国学力学習状況調査平均全国値比 6年国66.0(-0.8)・算56(-2)</p> <p>・高知県学力定着状況調査平均全国値比 4年国71.8(+1.4)・算67.3(+1.6)</p> <p>5年国71.3(+2.2)・算63.0(+1.0)・理57.2(-8.2)</p> <p>・標準学調平均全国値比 1年国73.7(-1.2)・算82.8(+4.2)</p> <p>2年国75.6(-3.7)・算64(-7.3)</p> <p>3年国75.7(-1)・算70.1(-2.6)</p> <p>6年国64.8(-6)・算70.2(-2.9)</p> <p>・学校生活アンケート「授業に主体的に取り組んでいる。」87.4%</p>	C	<p>・国語については、学校での学習ということとは別に、家庭で小さいころから自分の思いを言語で表現する事、家庭での時間の使い方の変化などにより、子どもの語彙力の低下なども考えられる。AIに頼りすぎず、自分でまず考えて表現する事のできる子どもの育成にこれからも期待したい。</p> <p>・全体的にマイナスが多いのは気になる部分で改善点は多い。</p> <p>・目標を下回っている以上は、評価は下げざるを得ない。国語力は学問の基礎である。</p> <p>・スマホで簡単に動画にアプローチできる環境ではあるが、本を読む事でしか得られない要素をいかに伝えるか、行間にこそ魂は宿ると思う。</p>	C	<p>○それぞれの学年でクラウドを活用した学習者主体の授業を行えるような教科で教材研究を行うことができた。その結果、児童が授業に主体的に取り組めたと思う。</p> <p>●全国学力学習状況調査や高知県学力定着状況調査を見ると全国平均以下の学年が増えている。観点別で見ると、思考・判断・表現に弱さが見られる。クラウドを使った授業づくりに取り組んだが、資質・能力を付けるための効果的な使い方ができていなかったことが要因としてあげられる。また、直し等を最後までさせることができずに終わってしまった現状も見られる。次年度は各教科等の目標を達成するための効果的なICT活用を進める。また、基礎基本の定着を大切にするのを全教員で共有する。</p>
	<p>2. 1人1台タブレット端末を「日常的」に活用する授業実践・教育活動の推進</p> <p>・ICTやクラウドの特徴を効果的に活用した授業づくり研修・実践交流</p> <p>・授業チェックシート</p> <p>「ICT機器やクラウド環境を効果的に活用している。(3.5以上)」</p>	<p>2. デジタルドリル活用(のいちっ子タイム・家庭学習)</p> <p>(1)定期的な活用</p> <p>・低学年…週1回以上持ち帰り</p> <p>・高学年…週2回以上持ち帰りと週1回以上のいちっ子タイムでの活用</p> <p>・長期休みの持ち帰り学習</p> <p>(2)ICTを効果的に活用した授業改善</p> <p>(3)ICT活用自主研修実施</p>	<p>授業評価アンケート「ICT機器やクラウドを効果的に活用している。」3.8</p> <p>・単元計画の提示・配信の実施。</p> <p>1・2年生:紙媒体</p> <p>3年生以上:スプレッドシート</p> <p>・1年生は国語や算数・生活科でスプレッドシートやオクリンクを活用。</p> <p>・2年生以上も、国語を中心にスプレッドシートやオクリンク、キャンバ、スライドなどで考えの共有や振り返り等に使用。</p> <p>・2年生以上週に1回以上の持ち帰り学習。予習や復習、自主学習等に使用。</p> <p>・長期休業中、全学年デジタルドリル学習を実施。</p> <p>・学校情報化優良校の申請中。</p> <p>・校内・校外でDX研修を実施。。</p> <p>・「タイピングタイム」を実施。</p> <p>・グーグルドライブ内の共有フォルダの整理。</p> <p>・野市小ポータルサイトの活用。</p>	B	<p>・今の操作量で十分ICTを活用していると思う。これから先、大学入試がどのように変化していくか分からないが、現状では、紙ベースの文章を読み解く出題形式が国語だけでなく、数学や理科などでも求められているので、デジタルでの課題とともに読み聞かせや図書との連携を意識していけたらデジタルでの活用にαの力が期待できるのではと思う。</p> <p>・デジタルに慣れてくると、対話力や文章力など低下していると感じる。デジタルとアナログ、それぞれのよさを生かした学びのバランスも大切だと思う。</p> <p>・試行の連続ではあるが、常に手段が目的かしない様、客観的な視点をもってほしい。</p>	B	<p>○教材研究から効果的にICTを使えるよう各学年で取り組むことができた。実践後、効果的であったかを協議することで、日々の実践につなげることができた。児童、教職員ともにICT活用が飛躍的に進んだ1年であった。</p> <p>●この1年は、クラウドを活用した授業に挑戦しているところで、児童の資質・能力を向上させるために効果的なICTの使い方ができているとは言えない。今後は、学習データを使った授業改善に加え、児童自身が学習データを使った個別最適な学習を進めていけるような工夫が必要だと考える。</p>
徳	<p>1. 生徒指導の充実</p> <p>・道徳意識調査「自分のよいところ」肯定87%以上</p> <p>・学校教育診断アンケート「学校が楽しい」強肯定68%以上</p>	<p>1. 生徒指導の充実</p> <p>(1)学級経営に関する研修の実施、生徒指導上の四つの視点を意識した授業づくり、互見授業の実施(年3回以上)</p> <p>(2)学校行事・集会等の充実を目指す児童会活動を実施</p> <p>・なかよし班集会・全校集会の実施(月1回以上)</p>	<p>・道徳意識調査「自分にはよいところがあると思う」78.7%</p> <p>・学校教育診断アンケート「学校が楽しい」強肯定63%</p>	B	<p>・小学校の先生方は「ダメなことはダメ」「相手を大切にする」という事を伝えてくれているように感じる。</p> <p>・子ども達が学校生活を楽しみながら主体的に取り組んでいると感じている。掃除の縦割り班活動では、高学年が責任をもって取り組む姿が見られ、やりがいを感じながら、一生懸命活動しているようだ。</p> <p>・学校が楽しいと思う割合はこれまで高かったが低くなった原因は何だろうか。</p>	B	<p>○全校夏祭りやなかよし班集会の中で、自分たちで計画を立て、準備していく活動を通して、楽しく学校生活を送ることができた。</p> <p>○縦割り班掃除を実施することで異学年交流をする機会を増やすことができた。</p> <p>●道徳意識調査の「自分にはよいところがある」、学校教育診断アンケートの「学校が楽しい」肯定の割合が昨年度より下がってしまった。この要因を考え、検討していく必要がある。</p>
	<p>2. いじめの防止</p> <p>・道徳意識調査「いじめはいじめ」肯定95%</p>	<p>2. いじめの防止</p> <p>(1)いじめ重大事態化防止研修の実施</p> <p>(2)学校生活アンケートや道徳意識調査等を通じた問題の早期発見・改善</p> <p>(3)道徳アンケートと、それを基にしたいじめに関する道徳の授業・検証を実施(年2回)</p>	<p>・道徳意識調査「いじめはどんな理由があっても、いけないことだと思う。」肯定96.6%</p>	B	<p>・トラブルに対する対処、聞き取り等保護者対応も素早くしていると感じる。</p> <p>・ほぼ目標に到達してる。</p>	A	<p>○いじめに関する研修を行い、野市小学校の「学校いじめ防止基本方針」を確認し修正することができた。</p> <p>○修正した方針を職員会で共有し、未然防止や早期発見に向けた取組やいじめ発見後の流れを確認できた。</p> <p>○日々の問題の早期発見・改善を図る取組ができています。</p> <p>○道徳の授業や日々の学級経営を通していじめは絶対にいけないという意識を持つ指導をすることができている。</p> <p>●道徳意識調査を実施後、課題があった項目についての授業を実施できたか、把握していく必要がある。</p>

<p>3. 不登校の予防と支援 ・「ユニバーサルチェック自己診断」5つの事項の実施率の平均達成率90% ・新規不登校5名以下</p>	<p>3. 不登校の予防と支援 (1)教室内の1次支援を意識 ・チェック表を用い、教室内1次支援の状況を学期ごとにチェック実施率100% (2)児童の欠席状況を全教職員が把握。気になる児童は早期に支援会開催。対応策検討。 (3)不登校が理由で欠席(連続3日以上)した児童の支援会等を開催100%</p>	<p>・「ユニバーサルチェック自己診断」5つの事項の実施率の平均達成率100%※2学期末 ・新規不登校3名※2学期末 ・不登校児童10名※2学期末</p>	<p>B</p>	<p>・支援会等も実施して対応されていると感じる。 ・ユニバーサルチェック自己診断は目標をクリアしているし、不登校も高い目標をクリアしている。Aで良いと思う。 A</p> <p>○児童の欠席状況等を職員会や学年主任会等で共有をしたり、不登校が理由で欠席(連続3日以上)した児童の支援会等開催したりすることで、丁寧なアセスメントと具体的な支援の方法を共有することで、新規不登校児童を減少させることにつながったと考える。 ●昨年に比べ、新規不登校や不登校の減少が見られたが、依然として一定数の不登校児童がいるため継続して取り組む必要がある。生活リズムの乱れや、家庭の事情による長期欠席の児童も一定数いるので、今後も関係機関との連携強化に努め、改善につなげる必要がある。</p>
---	--	---	----------	--

	具体的な取組	学校の自己評価		学校関係者評価		年度末検証(改善策等)
		達成状況	評価	考察	評価	
<p>1. 体力と技能の向上 ・体育アンケート「体育の授業で目標やめあてを示している」「やってみようの活動を実施している」において肯定85%以上 ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、全校のD・E層のうち、特に低い項目2つの運動に取り組み、5%向上を目指す。</p>	<p>1. 体育の授業力向上 (1)「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」活用方法の提案(学期ごと年間2回) (2)体育の「のいち授業スタンダード」定着を図り授業改善に努める。(授業提案年間2回)</p>	<p>・「体育の授業で目標やめあてを示している」「やってみようの活動を実施している」肯定100% ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査全校D・E層 男子38.5%(D23.1%, E15.4%) 女子35%(D30%, E5%) ※昨年度:男子41.5%, 女子35.3%</p>	<p>B</p>	<p>・体育の授業等とも関連付けながら、冬の校内での衣服の調整など子どもが自らの健康や体調に関心をもてるようにしてほしい。 ・大規模校ならではの難しさの中で、一定の結果は出ているのではないか。</p>	<p>B</p> <p>○公開授業を各学年の体育担当教諭が参観し、体育担当教諭から各学年に「こうちの子ども体力・運動能力向上プログラム」の取り入れ方を確認するとともに、「のいち授業スタンダード」の再確認を行うことができた。 ○「体づくり運動」について公開授業を行ったことにより、体力向上に向けた授業の進め方を確認できた。 ●今年度の指標では、年度内に課題に対する改善が難しく、また年度が変わると対象児童も変わってしまうため、別の指標を設定する必要がある。</p>	
<p>2. 健康教育 ・生活がんばりカード 「早寝3日以上」達成68%以上 「早起3日以上」達成70%以上 「メディアの視聴時間2時間以内3日以上」達成70%以上</p>	<p>2. 健康教育 (1)生活・体力がんばりカードの結果を基に保健指導を行う。 ・生活・体力がんばりカード年3回実施。 ・身体測定時の保健指導年1回実施。 (2)家庭への啓発活動 ・保健日より年12回以上発行。 (3)全校集会で啓発活動を行う。</p>	<p>・生活がんばりカード 「早寝3日以上」63.5% 「早起3日以上」72% ・「メディアの視聴時間2時間以内3日以上」達成74.7%</p>	<p>B</p>	<p>・野市地域は物質面では豊かな子どもが多いように見えるが、安全で健康に過ごし、自分の身体能力を伸ばすことにまで余裕のある子どもは親の生活実態からも年々できる家庭と、ともすればネグレクト寸前のような家庭まで高低差が出てきているように思う。是非、児童がセルフケアを意識していけるような話を先生方に学校でしてほしい。 ・身体測定結果を知らせてくれるのは、年3回(1年間)でどれだけ成長したのか分かるのでとてもよい。親子の会話にもつながっていると思う。 ・家庭に危機感を持たせるアプローチが県全体で必要。高知県の保護者は「甘い」と感じる事がよくある。</p>	<p>B</p> <p>○実施に合わせて、メディアや睡眠・朝食について保健指導や栄養指導を実施し、児童に取り組みへの意識を高めることができた。家庭への啓発活動として、メディアの影響や外部講師による健康に関する学習の様子について保健日よりお知らせしたり、メディアの使い方について保健委員会児童が全校集会で発表したり、保健日より作成したりして啓発を行うことができた。 ●生活リズムは、保護者の生活環境が影響するため、改善が難しいが、今後も継続して指導していく必要がある。睡眠とメディアの影響について、次年度から5年児童対象に外部講師による講演を計画予定である。</p>	
<p>1. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 ・「学校は防災学習・交通安全・不審者対応などの安全教育に力を入れていると思いますか。」で85%以上(保護者) ・「地震や火事の時どうすればよいか分かる。」で95%以上(児童)</p>	<p>2. 防災を中心とした安全教育・安全管理の充実 (1)防災参観日で、全学年で引き渡し訓練の実施(年1回) (2)実践力向上を目指した避難訓練の実施(年3回以上) (3)外部機関を活用した不審者研修の実施(年1回)</p>	<p>・「学校は防災学習・交通安全・不審者対応などの安全教育に力を入れていると思いますか。」88% ・「地震や火事の時どうすればよいか分かる。」95% ・避難訓練及び引き渡し訓練を予定通り実施。</p>	<p>B</p>	<p>・防災訓練等を実施できている。また野市小の子どもは交通安全の意識は高いように思う。 ・学校のやるべき事は子ども達の安全と被災後、1日でも早く教育環境を回復させることだと思う。</p>	<p>B</p> <p>○すぐーるを使つての家庭へのお知らせは7回、学校日より、学年通信等を通して年間8回以上、避難訓練の前後に保護者に向けてお知らせすることを通して、肯定的評価が向上した。 ○地震・火災の避難訓練を3回行い、その中で消火訓練やシューター訓練を取り入れることで、どのように行動すればよいか身に付いた。 ●前年度踏襲ではなく、不審者対応訓練を児童と共に実施したり、想定外の状況を設定した避難訓練や火災訓練等を計画したりする必要がある。</p>	
<p>2. ワークライフバランスと働き方改革の推進 ・時間外勤務時間月45時間・年360時間以内を遵守できた教員の割合70%以上</p>	<p>4. 学校における働き方改革の推進 ・時間外勤務時間が特に多い教職員への定期的な働きかけ・面談の実施。 ・業務改善検討委員会の設置(年3回以上実施)</p>	<p>・時間外勤務時間270時間以内の教職員の割合約30パーセント※2学期末 ・業務改善検討委員会を実施。 ・行事・会議の削減・効率化に向けて定期的に検討・実行。</p>	<p>B</p>	<p>・先生方は、早く帰っても自宅の仕事をしているのではないかと心配している。よい案が浮かぶか訳ではないが、先生方の働き方については学校だけでなく教育委員会等が全体としての事務量の削減等を行う必要があると思う。 ・根本的残業を抑制する方法がない環境で、ある意味無理難題を現場に丸投げの現状では、無条件によくやっていると言わざるを得ない。言う管理職も言われる職員もネガティブな反応しか出ない。包括的で抜本的な現状に合わせた労務管理を国が提示できていない以上、あまりこのことで学校のリソースを割かれるべきではない。業務の見直しとは別。常にPDCAを回す必要はある。</p>	<p>B</p> <p>○行事・会議の削減・効率化に向けて定期的に検討・実行することができている。今後も業務改善検討委員会等を定期的に開催していく。 ●行事の精選等、業務改善とともに、教職員自らが自身の働き方について改善する努力も必要である。一斉退勤日に予定通り退勤するために「見直しをもって働く」ことを教職員自身が身に付けていく必要がある。</p>	
<p>3. 教職員のメンタルヘルス対策の推進 「自分自身の仕事に対し、やりがいを感じている。」と回答する教員92%以上</p>	<p>3. 教職員のメンタルヘルス対策の推進 ・臨機応変な面談の実施 ・若年教職員へのサポート体制の充実</p>	<p>・「自分自身の仕事に対し、やりがいを感じている。」と回答する教員93%</p>	<p>B</p>	<p>・先生方が1人で困らないためにも、トラブルや問題があれば運営協議会や外部専門機関等これからも活用してほしい。 B</p> <p>○管理職と教職員の面談、メンター会や学年会等で教員同士による支援・サポートが行われた。 ●校時表の見直し等を行い、教師の本分である授業改善のための時間が確保できるようにしていく。</p>		

	<p>4. 保幼小の円滑な連携・接続の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回以上の交流実施 ・校内研修への参加年2回以上 	<p>3. 保幼小が互いの教育内容を理解し合う取組を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1学期中に年間の交流予定を各園と相談・決定。 ・新任者や各学年から1名以上、保育士体験や校内研修へ参加。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回以上の交流実施。 ・野市幼稚園や野市保育所研修に校長・主幹教諭が参加。 ・野市保育所保育士体験・園内一日研修参加。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・引継ぎ等の実施もされておりよいと思う。 	A <ul style="list-style-type: none"> ○年間の予定通り、交流や保育所と幼稚園の校内研修への参加、引継ぎの実施ができた。 ●長期休業中の研修には参加できるが、平日の研修への参加は難しい。検討課題である。
職場風土づくり	<p>不祥事を生じさせない職場の風土づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続的な研修の実施 ・教職員による不祥事件数(0件)の継続 	<p>・不祥事を生じさせないための研修(学期に2回以上実施)</p>	<p>・不祥事防止委員会の計画に基づき、毎月服務研修を実施。県内の不祥事案について校内で周知。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期戻入案件あり。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不祥事0であれば、それ以上の評価はない。子供の手本である事を意識することが保護者以上に求められる。 	B <ul style="list-style-type: none"> ○毎月服務研修を実施するとともに環境整備を定期的実施し、校内での不祥事が起こらないように全教職員で協力した。 ●今後は、「諸手当における支給要件の変更及び喪失に関する適切な届出手続」の研修を複数回実施する。